

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 尾瀬から学ぶスローライフ
尾瀬に関わり45年
- 04 認定ガイドがススめる とっておきの尾瀬
①山小屋泊で三条ノ滝や尾瀬沼の夕日、湿原の蛍を楽しむ
②花を見て素直に感動する心を大事にして
- 05 現地情報
①原をわたる風だより
②おこじょだより
- 07 TOPICS
- 08 尾瀬ボランティア情報
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2015.12 vol.28
(公財) 尾瀬保護財団



色は匂えど 散りぬるを…

平成27年シーズンに現地駐在職員がとらえた“尾瀬”の表情。
いまは静謐な深呼吸の時。春を待ちながら。

※撮影日：2015年5月～10月
各撮影場所はP3に記載

□連載

尾瀬から学ぶスローライフ 「尾瀬に関わり45年」

文・写真提供＝笹原宗利（元・東京パワーテクノロジー(株)職員、前・山の鼻ビジターセンター所長）



▲ 昭和50年代の大江湿原

私が初めて尾瀬を訪れたのは昭和39年の初夏の頃だったと思います。当時中学生で、沼田市民ハイキングに家族で行った時でした。（尾瀬沼への日帰りコース）

大清水から山道をひたすら歩き三平峠を過ぎると尾瀬沼がようやく見えてきました。どこまで行ったらか（たぶん長蔵小屋付近）。

また、尾瀬沼や燧ヶ岳の様子はほとんど記憶がありません。帰りは三平峠付近で雨になり、寒いし疲れるので、尾瀬行きは辛い思い出となりました。

● 第1話

「入社当時の尾瀬と山小屋営業応援」

そんな思い出の東京電力(株)所有の戸倉山林や尾瀬の土地・山小屋等を管理運営する会社に入社したのが、昭和45年4月でした。ここから私が尾瀬と関わり平成26年度末まで45年間となりました。

入社当時私の配属は、山林管理課で戸倉山林の自然林の調査伐採（約30畝）やカラマツ苗木の植林作業などの現場管理、植林地の撫育業務（下草刈・つる切り・間伐等）戸倉山林の自然林と植林地と土地管理の担当でした。

尾瀬に仕事で入ったのは、ミズバショウ・ニッコウキスゲ・紅葉のシーズン繁忙期に会社経営の山小屋や休憩所施設（宿泊6ヶ所・休憩7ヶ所）の営業応援でした。

山小屋の営業応援は主に尾瀬ヶ原方面で、当時はまだ尾瀬沼

には渡船があり三平下から沼尻間は船が航行していたはずですが、入社年は尾瀬沼に行く機会が残念ながらありませんでした。（昭和46年渡船廃止）

入社当時は大清水・富士見下からの登山口がメインルートで、ミズバショウ等繁忙期の駐車場は沼田駅からの夜行バス、旅行社のツアーバス、マイカー等で早朝には満車となりました。

早朝に登山口に着いたバス等の登山者は、まだ暗い中を懐中



▲ 昭和50年代の鳩待峠

電灯で山に入って行く人々もいれば、休憩所は早くに閉店し温かい物（コーヒー・うどん・そば等）を準備しているのので、そこで朝食をとり明るくなるのを待つて入山する方もいました。

登山口の営業応援の時は、前日に休憩所に宿泊し夜中に起こされ眠い目をこすりながら、食堂の開店準備や駐車場の整理をします。また午後になると尾瀬に行った人々が下山してきますので、売店でお土産の販売や、商品補充の手伝いが夕方まで続きました。

□連載

尾瀬から学ぶスローライフ 「尾瀬に関わり45年」

文・写真提供＝笹原宗利（元・東京パワーテクノロジー(株)職員、前・山の鼻ビジターセンター所長）

一方、尾瀬ヶ原にある山小屋
宿泊施設の応援は週末2泊3日
になり、宿泊者の食事の準備や
清掃、休憩所での軽食・土産販
売の手伝い、また公衆トイレや
ゴミかごの清掃と大変でした。
ハイシーズンの週末の山小屋
は、旅行社や一般の団体予約等
で満館のところが多い、予約な
し（飛び込み）の方も少なくない、



▲ 昭和50年代の横田代

まだ早い時間帯のうちはこの
山小屋もお断りします、しかし
夕方になって泊めて下さい、と
言って来られる登山者には困り
ます。山小屋は避難小屋的な立

場もあり、夕方薄暗くなってき
て断るわけにもいかず、隣所
の山小屋に空き状況を確認し、
どこも満館であれば泊めなけれ
ばならない、当然客室はいっぱ
いなので廊下や乾燥室等になる
が、お客さんは夜露がしのけれ
ばと喜ぶ。

次に当時の尾瀬ヶ原の様子を
お話したいと思います。湿原
には単線・複線の木道は敷設し
てありましたが、今みたいにダ
ブルの複線ではありません、そ
してカラマツ材ではなく広葉樹



▲ 昭和50年代の尾瀬ヶ原

を二つに割った木道でした。

昭和41年頃からヘリコプター
を使い始めたと聞きました。そ
れ以前の木道は春先に現地の山
から広葉樹を切り出し、ソリで
運搬したのでしよう、木道の長
さは今と同じですが幅が一定で
なく、細かったり太かったり、
曲がっていたりしました。時に
はナメコ・なら茸等のキノコが
出ていました。もちろんヘリ運
搬が始まってからの木道はカラ
マツ材を域外から運搬し取り換
え設置してありました。（続く）

「次回」

第2話（当時の尾瀬ヶ原の
自然保護と登山者のマナー）



▲ かつてのノ瀬休憩所（いま
よりも川のそばにあった）

【表紙写真について】

- ① 尾瀬沼畔
- ② 尾瀬沼の夕焼け
- ③ 尾瀬沼の星空
- ④ 尾瀬ヶ原ミニツアー
- ⑤ 晩秋の尾瀬ヶ原
- ⑥ 残雪の至仏山



▲ 昔の尾瀬沼山荘

その29 山小屋泊で三条ノ滝や尾瀬沼の夕日、湿原の蛍を楽しむ 〈萩原康寿（尾瀬自然ガイド）〉

(東京パワーテクノロジー(株)尾瀬林業事業所 Tel 0278-58-7313 URL <http://www.welcome-to-oze.com/index.php>)

A1 5月下旬〜6月上旬に三条ノ滝へ向かう道中。

日本の滝100選に選ばれた「三条ノ滝」、そして帰りには温泉付きの山小屋「元湯山荘」でゆつくりと汗を流し、キンキンに冷えた生ビールを流し込む(宿泊ならばもう2〜3杯)。シーズン中、色々な姿を見せてくれる三条ノ滝と疲れを癒してくれる温泉を堪能してください。

A2 尾瀬沼の初秋の夕日は心が洗われます。山々の裾野に沈む夕日に、燧ヶ岳や景鶴山の姿がシルエットのように映し出され、とても幻想的です。

A3 夏の尾瀬は、昼と夜との温度差が10度以上あることがあります。防寒対策として①フリースやヤッケを持っていくことをおすすめします。

また、山の天気は変わりやすく、雨がいつ降り出すのかわかりません。②雨具とザックカバーは必需品です。リュックまで覆うことのできるポンチョもおすすめです。

A4 近年では、身近でなかなか見かけなくなつた「蛍」。東電小屋付近の湿原では、7月中旬から8月上旬にかけて蛍が舞い飛びます。豊かな自然を発見した時の喜びは格別です。

A5 尾瀬の貴重な自然を後世に受け継ぐことは我々の使命であり、尾瀬のマナーをご理解いただき、一人でも多くの方に大自然を体験していただきたいと思ひます。

・◇尾瀬ガイド協会◇
〔事務局(公財)尾瀬保護財団〕

●Tel: 027-220-4431

●Fax: 027-220-4421

●URL: <http://www.ozeguide.net/>

※このコラムは、尾瀬ガイド協会(群馬支部・福島支部・新潟支部のいずれか)に所属する諸団体のガイドさんのうち、尾瀬認定ガイド資格をお持ちの方に對して、アンケート形式で取材しているものです。

その30 花を見て素直に感動する心を大事にして 〈勝股政雄（尾瀬自然ガイド）〉

(尾瀬ネイチャーガイドの会 Tel 027-266-8511 URL <http://oze-guide.net/>)

A1 尾瀬は、実にさまざまに顔を持っていて、一回尾瀬ヶ原を歩いたからそれでよしとせず、別のコースをたどることをお勧めします。湿原と一口に言っても尾瀬ヶ原だけでなく、森の中にひっそりと佇む湿原や山の上にある湿原など、それぞれ趣が違います。轟音をたてて落ちる滝もあり、また、至仏山などに登ると、植物や動物に変化があり、圧巻の眺望を楽しむこともできます。山懐に抱かれた沼も良いですね。また、多様なコースを取るだけでなく、同じ場所でも季節を変えて訪れてみると、自然の豊かさや、力強さを感じることが出来ます。

A2 私は、白砂田代がお気に入りです。白砂畔からと沼尻からの山道は、オオシラビソの太木に覆われた森の中の道です。森を抜けると一気に大きな空が現れ、湿原が広がります。開放感が心が満たされます。尾瀬ヶ原も同様に広々とした感じを持って好きなのですが、この白砂田代は、広くなく、「原生林の懐に抱かれた」と言う表現がぴったりのホッとする空間です。そして池塘を飛び回るトンボたち、白やピンクのかわいい花たち、そこから目を上に向けると、周り中オオシラビソの緑一色です。ゆつくり座っていたい所です。

A3 虫メガネの持参をお勧めします。かつて、研究見本園で小学生に一人ひとり虫メガネを持たせて、タテヤマリンドウを観察させたことがあります。虫メガネ

でぐつと拡大されたことよって、この花のつくりと美しさに魅せられたようでした。ワイワイ言いながら虫メガネを覗いているうちに、ある子が「あれ!これ中が違うよ。」と言い出しました。「どれどれ!」みんなで見ることがになりました。やはりちがう。子供はいくつかの花を比べて見ていたのです。ここで、私は、雌性先熟の話を簡単にしてやることになりました。

A4 10月初旬のことです。天気予報は悪くなくたつたのですが、大風が吹いて雨にみぞれが混じる悪天候となりました。時々強く降る雨が、やがてパラパラとあられになりました。「楽しみにしていたのに」と気持ちが沈みがちでした。尾瀬ヶ原を歩いているときのことです。暗い空に一瞬ぼつかりと穴が開き、太陽の光が牛首の辺りだけを照らしました。鮮やかな赤に黄、緑に染まつた山と、手前の湿原と池塘がほんの一部だけが輝いたのです。皆、感動して見られました。暗い空からスポットライトが当たった一瞬の出会いに感激しました。さらに、あきらめかけていた沈んだ気持ちの中だったので、余計に感動的だったのだと思います。

A5 木道を歩いていて、池塘に咲くミツガシワを見つけました。しゃがみこんで見ていると、一人が、「つぼみのピンクがきれい。」またある一人が「花びらがレイスみたいだ。」と、言いました。はじめて見たこの花に見とれているのを見て、私はこの一瞬こそが大切なんだと思いました。花を見て素直に感動する心を大事にして、私はこれからもガイドを続けていきたいと思ひます。この感動が元になって、自然の大切さを知り、次世代に残していきたいという心が育つと、思ひます。

ガイドさんへの質問

Q1 尾瀬の楽しみ方 Q2 オススメの尾瀬スポット Q3 尾瀬歩きに便利な道具・装備
Q4 思い出のエピソード Q5 今後の抱負・目標

原をわたる風だより

山の鼻にジターセンターがある

今シーズンを振り返って

「田舎」

山の鼻にジターセンターに勤務して、かれこれ3年がたちます。振り返ってみると色々な人との出会いがありました。

山小屋さんやボランティアさんなど顔を見るところからでも挨拶をしていただきました。その中でも一番うれしいのは昨年に「ジターセンターに来ていただいたお客様で、「森山さんはいますか？」と名前を覚えていたことです。この言葉を聞くと初めて来る方がまた尾瀬に行きたいなと思えるようにいっそう頑張ろうと思えます。(森山暢希)

「環境に育てられた半年」

尾瀬に関しては右も左も分からず、ただ「山で働こうかな」と思い来ましたので、はじめはお客さんに聞かれてもうまく答えられないことが多かったと思います。



▼ミニツアー (8月7日)

ですが何度か外を歩き、多くの人に教えて頂いているうちに、少しは余裕が出てきたのかの月に母が訪ねてきた際にはスライド上映

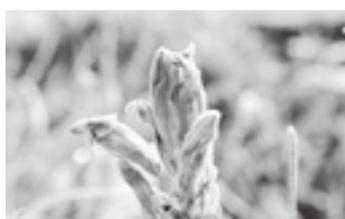
や朝の観察などを見て貰い、身内鼻原もあるでしょうが「なかなか様になっている」と言われ、未熟者は未熟者なりに環境に身を置けば成長するものだと思います。

最後に、尾瀬の自然と半年の間に出会った多くの人々に感謝申し上げて締めとさせて頂きます。ありがとうございました。

(菅原與晴)

「光陰矢の如く」

賑やかな紅葉の季節が過ぎ、寂しげな冬の



▲霜 (10月15日)

気配が尾瀬に近づいて来ました。つい最近に雪と共にと尾瀬にやってくるような気がしていたのですが、気が付いてみれば今シーズンが終わろうとしています。尾瀬に来るようになって三年が経ち、時間の過ぎてゆく感覚はどんどん早くなっているような気がします。時間が過ぎるのが速く感じた分、それだけ毎日が充実していたのだと思っても感慨深いです。駆け足のようだった今シーズンを通して、去年は出来なかったことや新しい出会いと発見が出来たことが深く印象に残りました。(高畑かな)

「永遠のシンボル」

尾瀬の自然の中で暮らしていると不思議な気持ちになります。シーズンには木道に列をなすハイカーの皆さんで賑やかな尾瀬ヶ原も夕方には人の姿は疎らになり、風間の喧嘩が嘘のようにシーンとした静けさが漂っています。

す。こんなに静かだ

と「動物たちはどこ

にいったのだろう」

と思うこともありません。

ですが、私たち人間の

存在の有無に関係な

く花は咲き、山は聳

え、動物は蠢き、尾

瀬は彼らの世界であ

ることを感じます。



▲訪花 (9月13日)

開発の危機を経て日本の自然保護の原点と呼ばれるようになった尾瀬がこの先も地球の中で生きていく私たち人間にとつて、つかの間の休息地として、動植物のすみ処として自然と人間が一緒に生きていくためのシンボルとして人の心の中に存在し続けたいと思います。

そんな尾瀬の中で働くことができ、とても幸せでした。お世話になった方々、尾瀬の自然に感謝です。ありがとうございました。

(中村俊一)

「尾瀬だいすき」

V.Cの管理員になり、初めて入山をしたあの日。5月の初旬なのにこんなに雪が残っているのだと驚きながら歩んだテンマ沢で、初めて見たミスバショウの花は、ついこの間の様に覚えています。

「尾瀬の季節の変化が見てみたい」、「大好きな自然をたくさんの方と共有したい」そんな思いでスタートした尾瀬生活。尾瀬の山々を歩きまわると、「幸せだな」と何度か心の中でつぶやきました。そんな体験は知識となり、窓口対応・巡回後の情報紙・夜のスライド・

ミニツアーな

どでお客様と

共有すること

が出来たと思

います。半年

尾瀬漬けでも、

まだあれが見

たかったと名残惜しくなる尾瀬。来て頂いた方には尾瀬での自然体験を通じ、日常でも自然環境について考えるきっかけになってい

ばと思います。

(森田真木)

「気になるアカゲラ」

一昨年経験した半年は尾瀬に来るのも初めて、季節ごとに色々な花が咲いていくことに驚いた年でした。今年、尾瀬に暮らす鳥をもっと知りたいと思い、木の枝や鳴き声をよく聞くようにしました。中でも春先、植物研究見本園入り口のカラマツで、子育てをしていたアカゲラは思



▲アカゲラの子育て (6月20日)

い出深いです。木をくちばしで「コンコン」と叩く姿がかわいく、幹に丸く穴を開けた巣に一生懸命エサを運んでいました。オスは頭が赤く、黒と白と赤といった色合いもきれいで、とても気になる存在でした。尾瀬のいきものとふれあうことは、難しいですが、だからこそ出会えたときの感動は大きいものだと思います。

(渡辺早紀)



▲相棒 (5月25日)

おごじよだより

尾瀬沼ビジターセンター

今シーズンを振り返って

いろいろあった半年でした

▼ 10月の尾瀬塚



これからの半年どうなるだろうと不安を抱きながら、5月、沿山峠から尾瀬に入りました。大江湿原もまだ残雪で真っ白で、この時期しか見られない素敵な光景でした。今年には尾瀬にとって残念な出来事が多くありました。尾瀬山開き直前の御池〜沿山峠間の通行止めがあったり、沢尻温泉小屋の倒壊があったり、秋には沿尻休憩所の火災があったりしました。沿尻休憩所の火災は特にショックを受けました。お客様もみな、とても残念がっていました。いろいろな出来事があった今シーズンもあつとつ間に終わってしまいました。

良いスタッフ、お客様、尾瀬関係者等々に支えられて、無事業務を終えることが出来ました。ありがとうございました。

初めての尾瀬沼

(阪路善彰)

2年目の尾瀬。今年度は、尾瀬沼ビジターセンターでの勤務となりました。尾瀬沼という新しい環境にワクワクする一方で、昨年度と全く違う環境に困惑することも多々ありました。そんな中で日に日に移り変わる景色を見ていると、「自分の悩みなど小さいことだ。」

と非常に落ち着いた気分になれたことを覚えています。自然の素晴らしさ・偉大さを感じるときでもあります。また、利用者の皆様にごとまでお役に立てたのかわかりませんが、今シーズンは無事に終えることができたのもスタッフの頑張りのおかげだと思っています。

これからも、より良いビジターセンター運営ができるよう、まずは自身身を高めていきたいと思っています。



▲ 尾瀬沼ビジターセンター

最後になりましたが、尾瀬でお会いした多くの皆様、お世話になった関係者の皆様、また来シーズンもよろしくお願いたします。

(宇野翔太郎)

先を見ずえて

今年初めての尾瀬での生活は、あつとつ間に半年が過ぎてしまいました。雪がまだ残っていたら5月から始まり、春、夏、秋へと変わってゆく尾瀬の景色は、1日として同じものではなく毎日新しい発見がありました。尾瀬へ来た初めの頃は右も左も分からない状態で、慣れてきたかなという頃にはシーズン終盤となっていました。まだまだやりたいことがあり悔いは残りますが、来年こそは目標を持ってやり遂げたいと思います。

▼ 朝露とトンボ



雪解けと共に花を咲かせていたミスバショウは、今はもう春に向けて新しい芽を出しています。厳しい冬を乗り越えて花を咲かせるミスバショウの様に、私も来年に向け成長していきたいと思っています。

(石塚舞雪)

日進月歩―決意新たに―

尾瀬での勤務3年目を迎え、両ビジターセ

ンターで学んだ経験を様々な場面で生かすことができ、充実した1年となりました。その一方、自分自身、まだまだ至らないところも多々ありました。来年こそはまだ足を運んでいない場所や取り組みたいことなどを達成できるように、努力してゆきたいと思っています。



▲ 海を越えて再び尾瀬へ

また、尾瀬の自然はとも豊かで山小屋や尾瀬を訪れる人々の温かさを感じることができずばらしい場所であることしみじみ思います。いつまでも美しく温かな「尾瀬」を守ってゆけるように今後ともよろしくお願致します。

(川上藍)

心から「ありがとう」

残雪の残る尾瀬沼に来て、ミスバショウ・リュウキンカが咲く天上の別世界に感動、そして今、紅葉も終わり雪が降り積もるのを待つばかりの尾瀬沼を見て涙。

感動・感激、そして静寂の中で自己を見つめた日々。あきることなく毎日のように眺めた、尾瀬沼・燧ヶ岳・大江湿原・朝・昼・夜と表情を変える自然や、次々と咲き出す花々に出会えたときの喜びは言葉では言い表すことができない。

巡回で、そして休日歩いた木道・登山道、すべての道を歩くことはできなかったけど、だからこそ今度は残りの道を歩きに来ようと思っ。尾瀬に来る理由ができた！

絶対に忘れない体験を半年間与え続けてくれた尾瀬の自然に心から「ありがとう」

(合掌(栗城昭義))



▲ ビュースポットから

笑顔の尾瀬沼

植物が目まぐるしく入れ替わり、表情を変えていく尾瀬の風景の様は尾瀬沼ビジターセンターでの1シーズンは怒涛のように過ぎていきました。普段よりも足元に注意してあるいたり、普段は感じないような風の音や木々のざわめきに耳を澄ませたり、樹木の香りを嗅ぎながら巡回をしたりと初めての経験をしながら自分のできることを模索した5ヶ月でした。ごまで尾瀬の素晴らしさをお客様に伝えられたかはまだ、分かりませんが、5ヶ月間楽しく仕事と生活ができたのは、お客様、スタッフ、尾瀬に関わる皆様の笑顔のお陰であることは確かです。皆様ありがとうございました。

▼ ヒメザゼンソウ



今シーズンより環境省尾瀬沼ビジターセンターにてスタッフとして勤務を始めました。私自身は20代に海外への旅を通じて様々な人種やキャリアを持った方や旅人と出逢い、地球全体の平和には「人と自然の共生」がキーワードだと受け止め今日へと至った。

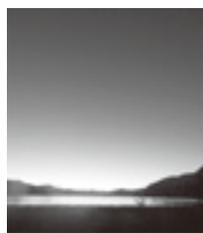
そんな私が20代だった頃の空は青くて心のリズム次第で何とでもなつた。あの頃から年月を重ねて私は今回この尾瀬でこの先へと繋がるターニングポイントに立つ自分と出会った。そんな自分の上に広がる空はあの頃の青ではなく蒼の空でした。

青が蒼に移ろう頃

(平林丈嗣)

この先もいろんな人や空と出逢っていききたい。

(穂坂義人)



▲ 青が蒼に移ろう頃

○第1回冬期調査を実施しました

11月2日に尾瀬から下山して早くも3週間とちよつと、「この前下山したばかりですよね。」「山の鼻ビジターセンターの所長とそんな話をしながら車を尾瀬に向かって走らせました。今回は前の晩から強い寒気が入り込んでいたため、尾瀬に近づくとつれ增えていく雪を見ながら、「尾瀬は大丈夫だろうか。」そんなことを考えていました。



1日目、鳩待峠はあいにくの雨、積雪は20cm程で山小屋も木々も登山道も真っ白になっていました。歩き慣れた道ではありませんが、まだ誰も歩いていない真っ白

な木道を歩いて行くには、注意が必要な場面もありました。ビジターセンターに到着すると、建物内外の確認を行い、続いて周囲の確認も行います。「大丈夫ですね。」「もしここで建物等に損傷が見つかるとう冬を越せない。」なんて大変

なことにも成りかねません。何事も無いのが当たり前といった感じの中で、確認が終わるまでは多少の不安



が付きまといました。

2日目は、竜宮まで途中の橋や公衆トイレの確認に行きました。

朝は上の写真のような天気だったのでさすがは冬山の天気、お風過ぎから天候が急変し、すぐに雪が舞うようになりました。そして下山時には、時折吹雪の中を歩くことになりました。

今回は、簡単にご紹介させていただきましたが、今年も何事もなく終わることができて安心です。来春にも●まで何もないことを祈るばかりです。来シーズンはどんな尾瀬が見られるのでしょうか。

(宇野 翔太郎)

○尾瀬ガイド協会「理事会」および「認定審査委員会」が開催されます

平成28年1月13日に埼玉県さいたま市にて、

尾瀬ガイド協会（事務局・尾瀬保護財団）の平成27年度第2回「理事会」および「認定審査委員会」が開催されます。

今回は、今年夏から秋にかけて行われた平成27年度尾瀬自然ガイド検定及び同登山ガイド検定の結果について、まず午前中の認定審査委員会で審査が行われます。その審査結果に基づき、午後の理事会で検定合格者を認定ガイドとして認定することが承認され、新しい認定ガイドが誕生します。

今回認定される方々は平成28年シーズンから、晴れて尾瀬認定ガイドとしての活動ができることとなります。

その他、当日は来年度の検定試験や認定更新講習について話し合われる予定です。

また、本年度は尾瀬認定ガイドの認知度向上のために、新規事業として東京都内で机上講座を2回実施しました。今後も尾瀬ファンを増やし、認定ガイドの活躍の場を広げるため、尾瀬ガイド協会では尾瀬内外で活動していきます。

○総合学術調査検討委員会が開催されます

平成28年1月31日に東京都新橋にて、第4次尾瀬総合学術調査の実現を目指した、2回目の検討委員会が開催されます。

今回は平成27年11月5日に行われた同1回目の検討委員会で意見交換された内容を集約し、学術調査の目標・調査内容の具体案をしばらくこむための話し合いが行われます。

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●「第12回インタープリテーション研修」を実施しました

9月26日(土)～28日(月)、福島県(御池および尾瀬沼)にて「第12回インタープリテーション研修(以下、IP研修)」を実施しました。

これは、尾瀬ボランティアに登録して日ごろ入山口啓発活動や巡回美化(清掃)活動に取り組んでいる皆さんを対象に、自然解説(インタープリテーション)の技術をも身につけていただき、今後のボランティア活動に活かしていただくことを目指したものです。

カリキュラムは大きく前半(御池地区)・後半(尾瀬沼地区)の二編成とし、9名のボランティアさんが参加しました。

▼若林正浩講師



前半は若林正浩講師(公益財団法人キープ協会所属、那須平成の森フィールドセンター長)による体験型のカリキュラム。初めは緊張した様子で少し固い面持ちだった受講生の皆さんですが、アイスブレイクと野外実習を経て、笑顔がこぼれるまでになっていったのが印象的でした。

一日目午後は、御池地区のスモウトリ田代周辺をフィールドに、若林講師が「同じ色探し」「家紋つくり」などテーマを提示し、受講生は複数の班に分かれてプロ



グラムを体験しました。その夜は檜枝岐村の滋味あふれる食事に舌鼓を打ち、自由参加でビ

ジターセンターのスライドショーを模擬体験したのち、先生を囲んでの交流会となりました。



▲落ち葉を熱心に観察する受講生

▼朝の記念撮影



二日目は朝霧の田代散策で始まり、尾瀬ブナの森ミュージアムで屋内実習に取り組みました。班ごとにテーマを定め、解説の補助素材となる「フリップ資料」を協力して作り上げ、自然解説の実演を行うというもので。インタープリテーションで大切なのは、目の前の形あるもの(花、葉っぱ、風景など)の魅力だけでなく、見えないもの(過去や未来、別の季節、自然を愛しむ気持ちなど)をどう伝えるか、です。そんな若林講師の言葉が心に響きました。

昼食を挟み、尾瀬沼に移動しての後半カリキュラムは、財団職員の先導で「ひとりプログラム」を完成させる(実演)「ことを目標に定めました。沼山峠から尾瀬沼までの移動は2班編成とし、職員によるスポット解説を体験しながら歩きました。互いに声を掛け合いながらの道すがら、ゴゼンタチバナの実を珊瑚にたとえる方がいたり、それぞれの感性が見え隠れして素敵な時間でした。

ビジターセンター到着後は各自で解説スポットと材料探しの時間に充て、三日目午前中に一人5分程度のプログ

ラム実演と皆での評価会を行いました。限られた時間のなかで、ほぼ全員が何らかのフリップ資料を作成するなど、前半のカリキュラムで若林講師から学んだ手法をさつそく実践する姿が見受けられました。終了後の振り返りで「来シーズンはお話ボランティアをやってみよう」という声が複数



▲実演と評価会

のボランティアさんから上がったことが、ボランティア業務担当者として本当に嬉しかったです。受講生の仲間の輪が広がったことも、これからの活動に繋がってゆくものと思っています。

ボランティアの皆さんの活動が盛んになり、尾瀬国立公園の利用と保護について財団と尾瀬ボランティアが協働する未来をつくっていききたいと、改めて感じました。

三日間の全カリキュラムを修了した9名は、今後、環境学習ミニガイドツアー(山ノ鼻地区)およびお話ボランティア活動(尾瀬沼地区)を実施することができるようになります。よろしくお願いたします。

また、若林講師による実習で各班が作成したフリップ資料は、完成版をビジターセンターに常置し、IP研修修了者ならごなたでも活用できるように貸出対応をしてまいります。

財団として、ボランティアの皆さんの活動の機会が広がっていくこと、また、活動の楽しみが増していくことを願っています。

IP研修は隔年で計画・実施しているもので、次回は平成29年度の予定です(但し、最少催行人数に満たない

場合は翌年度に延期する可能性があります。

●「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施しました
平成27年の尾瀬シーズン終盤、現地でのボランティア活動の締めくくりとして「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施しました。

9月5日(土)

一ノ瀬く尾瀬沼コース、事務局職員が目崎のコーディネートで、尾瀬ボランティア2名が参加しました。例年事前にお申し出をいただいた上で元気なお孫さんを連れだつて参加くださるボランティアさんもおり(※)、活気あふれる行程になったようです。ふもとはまだ夏の名残の感じられる頃でしたが、登山道沿いのオオカメノキには赤い実が付き、大江湿原では秋の花々(ミヤマアキノキリンソウ、ウメバチソウなど)が風にそよいでいたこと。静かな尾瀬沼を満喫しながらのゴミ拾い活動にご協力をいただき、ありがとうございました。

(※) 活動中、万が一のお怪我などに備える(ボランティア保険)についてはご本人様のみ適用(尾瀬ボランティア登録更新者ではないご家族、ご友人の方は対象外)となりますので、十分ご注意ください。

10月18日(日)

透けるような高空の下、小春日和というにふさわしい陽光がふりそそぐなか、尾瀬ヶ原と尾瀬沼にて活動をいただきます。

尾瀬ヶ原コースでは尾瀬ボ



▲ 快晴の尾瀬沼周辺。暑いくらいだったとか

▼ ボランティアさんの先導した班 (高崎ハムと混成チーム)



牛首くヨツピ吊り橋間が工事のため通行止めとなつていた関係で、巡回コースによって所要時間に1時間の差が生じてしまい、申し訳ありませんでした。

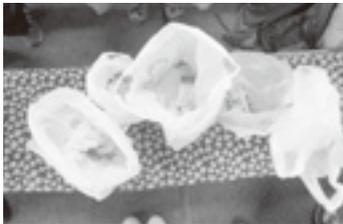
尾瀬沼コースは、尾瀬沼ビジターセンター職員が先導し、2名のボランティアの方に参加をいただきました。

前日に実施した「至仏山東面登山道整備作業(柵倒し)」と掛け持ちで参加をいただいたボランティアさんもあり、とても助かりました。

毎年、尾瀬ヶ原コースに参加者が集中することが課題の一つですが、JA高崎ハムが尾瀬沼コースにも関心を寄せてくださつており、分散化を図りたいと考えております。

尾瀬は長い冬を迎えておりますが、尾瀬ボランティア

ランテニア11名、JA高崎ハム社員10名が協働でゴミ拾いを行いました。参加人数が多いため三班に分かれての活動となり、山の鼻ビジターセンター職員(森田)がコーディネーターを務めた他、ボランティアのなかからお二人に連絡係をお願いしました。



▲ 回収したゴミ (飴の袋のかけらや輪ゴムなど)



▲ ゴミを発見!

の皆さんには、雪解けを待ち、また来シーズンもご協力を賜りたく、お願いいたします。

●「第19回尾瀬ボランティア総会」を開催します

第19回尾瀬ボランティア総会および交流会を次のとおり開催します。今回の総会では、平成28年に20周年を迎える尾瀬ボランティアの今後の活動について、多くのボランティアさんと意見交換したいと企画を練っているところです。詳細及び出席状況は、財団ウェブサイトの尾瀬ボランティア専用ページ「第19回尾瀬ボランティア総会および交流会のお知らせ」にてお伝えしておりますので、あわせて御確認ください。(ロープワーク講習を行うため、開始時刻を12時30分に変更しました。御注意ください。)

尾瀬ボランティア総会の開催概要

◎日 時 平成28年1月23日(土)

総 会 : 12時30分~16時30分

※交流会は別会場(17時00分)を予定

◎場 所 高崎市労使会館(高崎市東町)

◎内 容

・講習 ロープワーク講習

・テーマ「尾瀬で役立つロープワーク」

・講演 (演題は仮題です)

「尾瀬における傷病事故の現状と対応策」

講師 谷川岳警備隊副隊長 新井孝之氏

・講事 平成28年度活動計画・意見交換ほか

◎その他

申込方法、申込期限等はすでに送付済みの通知でお知らせしていますが、一部変更がありますので、前記の財団ウェブサイトの尾瀬ボランティア専用ページをあわせて御確認ください。



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

■また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

■企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度があります。詳細は財団事務局（群馬県庁17階：027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階：027-220-4431）にご来訪いただくか、財団に御連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

SAVE ON

2015年11月24日寄付



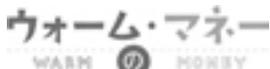
アサヒビール株式会社

2015年9月30日寄付

株式会社セーブオン 平成27年5月19日～6月30日および9月1日～13日の間、群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。(通算寄付総額 6,751,550円)

寄付者からのメッセージ：(株)セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで末永く守り続けるための活動を応援してまいります。

アサヒビール株式会社群馬支社 これまで継続してご支援をいただいていた「うまい！を明日へ！」プロジェクトによるご寄付は平成26年度で終了となりましたが、今後も当財団への支援を続けていきたいというアサヒビール群馬支社様のご厚意により、今年度は100万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 28,957,751円) 寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春から、全国活動の一環として群馬県内での売上の一部を尾瀬保護財団様へ寄付させていただいてまいりました。今後は群馬支社独自の取り組みとしての寄付継続を含め、県民の皆様とともに環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役に立てただけなら幸いです。



福島銀行

2015年4月27日寄付

株式会社福島銀行 平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成27年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,024万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 26,784,598円)

寄付者からのメッセージ：福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気(マジ)宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。

明日をもっとおいしく



2015年3月31日寄付

株式会社 明治 (株)明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、30万円のご寄付をいただきました。今回を含めて今後3年間に渡りご寄付をいただくこととなっております。(通算寄付総額 450,000円) 寄付者からのメッセージ：(株)明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させていただきました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。



2015年2月6日寄付

公益財団法人 コメリ緑育成財団 コメリ緑育成財団様より50万円のご寄付をいただきました。コメリ緑育成財団様からのご寄付は、前身のコメリ緑資金の会様からのご寄付と合わせて、今回で6回目のご寄付になります。来年度もご寄付をいただくこととなっております。(通算寄付総額 3,000,000円)

寄付者からのメッセージ：当財団は、(株)コメリの利益の1%還元事業として1990年に設立した「コメリ緑資金」による緑豊かなふるさとづくりへの助成事業を引き継ぎ、2012年に公益財団として新たにスタートしました。私たちの住むふるさとが花や緑にあふれ平和で豊かであってほしいと願い、豊かな自然環境づくりや園芸農業分野における技術開発などへの助成を行っています。未来の子どものために、尾瀬の美しい自然と豊かな生態系がいつまでも引き継がれていくことを願っています。

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額525万円余りをご寄付いただきます。平成19年より今回が9回目のご寄付となります。（通算寄付総額 55,840,647円）



2015年11月9日寄付

第四証券株式会社 今年度は6万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 1,673,975円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



2015年10月26日寄付

DIAMアセットマネジメント株式会社 今年度は262万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額27,920,324円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



2015年10月21日寄付

株式会社第四銀行 今年度は41万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 5,893,897円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



2015年6月4日寄付

株式会社東邦銀行 今年度は82万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 9,802,859円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR（企業の社会的責任）を重視して取組んで参ります。



2015年6月3日寄付

株式会社群馬銀行 今年度は132万円余りをご寄付いただきました。（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 28,701,952円）
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

- | | |
|--|---|
| 水上高原リゾート株式会社
2015年9月8日寄付 | 水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル（水上高原ホテル200）で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で3回目となります。（通算寄付総額 1,140,000円） |
| 株式会社ニチネン
2015年7月17日寄付 | 株式会社ニチネン様が片品村の尾瀬工場（平成19年4月に設立）で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で9回目となります。 |
| 株式会社読売旅行
2015年6月15日寄付 | 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、10万円のご寄付をいただきました。昨年度から3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。（通算寄付総額 200,000円） |
| 一般財団法人
群馬県警察厚生会
2015年6月11日寄付 | 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で5回目となります。（通算寄付総額 500,000円） |
| 共和工業株式会社
2015年4月28日寄付 | 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で7回目となります。（通算寄付総額 1,300,000円） |
| 株式会社とりせん
2015年2月25日寄付 | 当財団の自然保護活動に活用していただきたいとのことで、10万円のご寄付をいただきました。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境関係に寄付するということで社員の皆様から募金をしていただき、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は今回が3回目、昨年度から3年間にわたり継続してご寄付をいただくこととなっております。（通算寄付総額 1,258,391円） |
| 株式会社フレッセイ
2014年9月30日寄付 | フレッセイとキリンバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、31万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で5回目となります。（通算寄付総額 1,952,683円） |
| キリンバレッジ株式会社
2014年9月30日寄付 | フレッセイとキリンバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、31万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で5回目となります。（通算寄付総額 1,745,946円） |
| 群馬トヨタ自動車株式会社
2014年8月4日寄付 | 平成25年4月から平成26年3月までの間、群馬トヨタ自動車株式会社様にて自動車保険への加入者が、「レンタカー費用補償特約」を付帯することで、1契約につき50円が群馬県の自然保護活動への支援に充てられることになっており、当財団へ寄付をいただきました。今回で3回目となります。（通算寄付総額 447,850円） |
| 株式会社コシダカホールディングス
2014年3月31日寄付 | 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、30万円のご寄付をいただきました。（通算寄付総額 300,000円） |
| エース株式会社
2014年2月5日寄付 | エース株式会社様の尾瀬関連商品の売上の一部（10万円）をCSRの一環として当財団にご寄付いただきました。同社からのご寄付は今回が4回目、今回を含めて今後新たに3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。（通算寄付総額 1,000,000円） |



ルイヨウボタン

葉がボタンに似ているとの名だが、似ているのは葉だけ。花は直径わずか15mmほど、しかも黄緑色で目立たないが、出合ったらルーベの出番だ。雄しべのすぐ後ろに、イチヨウの葉を小さくしたような蜜腺がある。

目立たないのに昆虫がくるのだろうかと思っていたら、あるときガガンボの一種が訪れ蜜を吸っていた。その頭部の大きさと、蜜腺と雄しべとの隙間がまったく同じで、ガガンボは蜜を吸えば必ず花粉を擦り付けられ、花粉を運ぶことになるのだ。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



イベント情報 ◆◆◆

【前橋展】

- 開催期間 平成28年1月6日(水)～1月13日(水)
午前9時～午後4時
※但し6日は午後1時～、13日は正午まで
- 会場 群馬県庁1階 県民ホール
(群馬県前橋市大手町1-1-1)
(TEL:027-220-4431)

第19回NHK「わたしの尾瀬」写真展

【大阪展】

- 開催期間 平成28年2月27日(土)～3月6日(日)
午前10時～午後5時
 - 会場 NHK大阪放送局アトリウム
(大阪府大阪市中央区大手前4-1-20)
(TEL:06-6941-0431)
- ※予定は変更になる場合があります

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期が年4回(5月・8月・11月・2月)になりました

5月1日からの加入・更新をご希望の方は3月31日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (3/31現在、満22歳以下)	1口 1,500円
賛助	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別賛助会員 (団体・企業等)	1口 100,000円

【特典について】

- ※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。
- ・友の会会員バッジ進呈、各種資料送付(初回加入時のみ)
- ・財団機関誌：配付(平成27年度は3回発行予定)
- ・宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- ・尾瀬周辺施設利用料金割引：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
<https://www.oze-fnd.or.jp>

※特別賛助会員枠を新設しました

●●● 編集後記 ●●●

2015年の尾瀬シーズンが終了しました。人の姿が消えた尾瀬では、毎日どんな音や景色が立ち現れているのでしょうか。そんなことを考えると、「誰もいない森の中で木が倒れた時に音はするか」という哲学の命題を思い出します。音はするのだと思います。人間とは無関係に存在し、感じる人が誰もいない尾瀬で淡々と移ろい進んでいく自然の営み。その徹底した平静を思うと、心が落ち着きます。(長谷川)



oze mobile
携帯サイト

緊急情報

お知らせ

ライブ映像

など

情報配信中

尾瀬の質問も
受け付けています

ツイッター

尾瀬情報
配信中

